

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

島根町加賀の大火 被災者に寄り添った支援を 声を直接聞く場を定期的に 地区再生は丁寧な合意形成で

尾村県議、田中・舟木・たちばな市議、
石橋元島根町議が現地調査

4月1日夕方に発生した島根町加賀火災は、全焼22棟、部分焼2棟、ぼや8棟など建物32棟、山林などを焼き、全



被災状況を聞く、尾村、舟木、たちばなの各氏(左から) [撮影田中市議]

焼失面積2573㎡と発表されました。(6月3日松江署発表)

火災直後に要請調査 緊急要望と義援金を市へ

日本共産党は翌4月2日に対策本部を設置。島根支所や避難所の公民館を慰問。避難者から要望を聞くと共に、救援募金を呼び掛け、4月7日に、市に対して①市営住宅の建設等住居の確保、②被災者の健康管理・精神的ケアの充実、③各種税金や社会保険料の減免、④消防職員の増員や消防水利の整備等消防力の強

公営住宅の建設で 集落の維持・存続を

5月28日、尾村利成県議と田中はじめ、舟木けんじ、たちばなふみの松江市議団は現地を訪れ、石橋元島根町議から火災の状況や被災された方々の要望の説明を受けました。

化等8項目の緊急要望と義援金を届けました。

長期的な復興については 合意形成の積み上げを丁寧に

加賀大規模火災は4月1日付で災害救助法の適用を受け、松江市は

二、消火活動資機材・人件費、避難所運営等災害対応人件費など1千6百万円等、総額1億8千2百万円余の補正予算を4月21日付専決処分決定しました。

第87回県議会を開催

日本共産党島根県委員会5月23日、出雲市内で第87回県議会を開きました。

議席奪還をめざす大平よしのぶ前衆院議員・衆院中国ブロック比例候補がオンラインで参加し、4月の3つの国政選挙での野党統一候補の勝利にふれ、「今度は総選挙での野党共闘の勝利と党躍進を必ず勝ち取ろう」と訴えました。

討論では9名の代議員が発言。



オンラインであいさつする大平氏

「総選挙躍進特別期間」の目標達成に全力をあげることも、野党連合政権を実現し、党創立100周年に向けて強く大きな党をつくることをめざす「総合計画」を採択しました。

新役員は次の通りです。

(敬称略)

▽委員長 上代善雄 (66) ▽新

▽副委員長 尾村利成 (58) ▽

常任委員 岩田剛 (40)、遠藤

秀和 (43)、河津清 (69) ▽以

上再、大國陽介 (41) ▽元

しまね自治研連続講座

「コロナ禍後の地域社会を展望して」

しまね地域自治研究所は5月25日、松江市内で第33回地域自治講座を開催しました。コロナ禍後の地域社会を展望する連続講座の第5回目は「コロナ禍における生活困窮者支援」がテ



八木さん(右)と森脇さん(左・オンライン)

マでした。松江市社会福祉協議会・くらし相談支援センターの八木倫洋相談支援員からは「コロナ禍での生活困窮者とその支援」、松江生協病院医療福祉相談室の森脇智子課長からは「無料低額診療事業から見えてくるもの・生活困窮者と帰国困難な外国人への支援」と題しての報告がありました。

八木さんは、相談事例も紹介しながら「コロナ禍で『特例貸付』等の申請が急増。単身やひとり親世帯で、若年層から現役世代からの相談が多い」「生活困窮の背景に、格差社会などの

社会的課題がある」「誰でもいつでも困ったときに相談できる社会を」と訴えました。森脇さんは、「無料低額診療は、経済的な理由で医療を受ける機会が制限されないようにする制度で、今はコロナ禍で働き盛りの方からの相談が増加。帰国困難となつた外国人にも対応」「制度の狭間にある方への支援を県に要請してきた」「引き続き届けていきたい」と語りました。

「制度につながるものもどかしさを感じる」「等しく生きる権利が奪われている」などの意見交流がありました。